

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。日本列島各地で大雨が降り、大変な思いをされている方も多いと思います。被害地域にお住まいの方には心よりお見舞い申し上げます。

一方、私たちが関わりを持ってきたアフガニスタンですが、事態は風雲急を告げています。タリバンが各地を制圧し首都に迫っているというニュースを目にされた方もいると思います。

米軍の撤退後、非タリバン地域だった北部諸都市がほとんど落ち、西の最大都市ヘラートも陥落、首都の南方にある都市ガズニも落ちました。南部のカンダハール陥落も時間の問題かと思います。首都突入も考えられますが、指導部ははやる気持ちを抑え、周囲を全て落とした後で、政府要人への国外退去を許し、その後の無血入城を目指すのではないかと思います。タリバンのスポンサー国である隣国のパキスタンもそう勧めるはずです。人口 420 万を抱える首都に進撃すれば、多数の市民の死傷者も出ますし、難民が溢れ、国際非難を浴びるからです。その場合、ガニ大統領はすぐにも国外に逃れると思いますが、誰かが救国のための臨時政府を組織し、抵抗する可能性もありますが、その可能性は少ないと思います。こんな時、「マスードがいたら」と思います。それは無理としても「マスードのような人間が現れてくれたら」と心から願わずにはいられません。

政府が瓦解すれば、タリバンが政権を握ります。そうなれば 20 年前の悪夢が再現するかもしれません。すでに制圧した地域では女性や児童虐待、市民の処刑などが行われているからです。かつてのように女子の教育と就業は禁止され、人権抑圧が広範に行われます。

私たちが支援している学校があるパンシールはまだタリバンの手には落ちていませんが、そうなれば、住民への激しい弾圧が行われることは間違いありません。また、タリバンを構成するパシュトゥーン人が目の敵にするハザラ人への弾圧も強まります。ハザラが多い、北の最大都市マザリシャリフと中央のバールミヤンが陥落していないのはハザラ人が頑張っているからだと思います。

タリバンの横暴を止めることができるのはタリバンを育て上げ、いまでも軍事顧問や志願兵を送り込んでいるパキスタンです。タリバン幹部の家族はパキスタンで暮らしていますし、タリバンの武器の補給などもパキスタン国境を抜けて搬入されています。そのパキスタン外相が数日前のインタビューで「米国がリーダーシップを発揮すべきだ」と語っていますが、パキスタンこそが圧力を

加えるべきなのです。アフガニスタンは内陸国で、イラン、タジキスタン、ウズベキスタンは反タリバンですから、パキスタンがタリバンの生命線なのです。今回のタリバンの攻勢の背後にはパキスタンが「米国が中国包囲網のためにインドを重視していることに危機感を覚えている」ことが挙げられると思います。パキスタンは裏庭に当たるアフガニスタンを自分たちの影響圏に収めるためにこの40年以上、軍を中心に人士支援と政治工作を重ねてきました。それがアフガニスタンの混乱の主要な原因です。国際世論を前に、シラを切るパキスタン、「今回の戦闘は政府軍が仕掛けてきたものだ」と主張するタリバン。どちらの嘘も許してはならないと思います。

この間にも多くの非戦闘員が戦火に巻き込まれ、あるいはタリバンの暴虐で傷つき、命を落としていることに深い悲しみを覚えます。マスードが懸念していたようにアフガニスタンは大国や周辺の国々に蹂躪され続けるのでしょうか。いつそれが終わるのでしょうか。一刻も早く戦闘が止むことを心から祈ります。このタリバンの横暴もいつか止む時が来るとは思いますが、それまでの「闇」を人々はどうかぐりぬければいいのか。私たちは無事を念じ、平和を祈ることしかできません。しかし、それも一つの力になるはずです。私は必ず天に通じ、多くの人の心に伝わっていくと信じています。

2021年8月13日

長倉洋海